

# 地域を守る消防団

火災発生時の消火活動や行方不明者の捜索、災害時の救助活動を最前線で担うのが消防団です。高幡消防組合四万十消防団には345名の団員が所属しています。(R.2.1 月末そのうち**女性消防団員**は3名おり、今回は最前線で奮闘する新米女性消防団員を紹介します。

志和分団の副分団長である父親の勧めで昨年4月に志和分団へ入団したのは山田奈美さん。住民と一緒に団活動に怖気づくことなく、ホースの繋ぎ方や片づけ方といった基本的な操法を学んでいます。



四万十消防団・志和分団  
山田奈美さん

## 「女性団員として何ができるか」

災害の最前線に立つことに対する恐怖心はなく、それよりも、女性団員として現場で何をしたらいいのかといったことを早く学びたいという。

仕事や子育ての合間を縫い、活動に参加している山田さん。津波避難訓練時、高齢者が急な坂道を苦勞しながら登っている姿を見て、「手助けが必要かも」と、女性目線で訓練を振り返る場面もありました。

## 「女性団員の必要性を声」

「今後の活動の中で女性団員の必要性や重要性をもっともっと訴えていきたい。」と誓ってくれました。

災害時、女性ならではの目線で現場で活躍し、私たちの大きな力になってくれるはず



消防団の総合力を高める、  
四万十消防団 操法演習大会



- ① 地域総出で行う興津地区 炊き出し訓練。
- ② オイコニアで行われた福祉避難所訓練。
- ③ 窪川高校生徒が保育園児と避難訓練。
- ④ 地域独自で避難体制を構築する 大正地区防災スイッチ検討会。
- ⑤ 北ノ川中学校の生徒がHUG学習。
- ⑥ 浦越、茅吹手、里川、津賀地区 合同訓練。
- ⑦ 志和地区津波避難訓練。災害弱者になりやすい要配慮者も参加。

各地区で広がる共助の輪

# 特集



共助編

# しまんと防災

シリーズ  
2/3

—地域で**共**に**助**け合う—

## 地域の防災力を高めるリーダーたち

広域な面積を有し、津波被害や孤立集落の可能性もある四万十町。より一層、平時から地域ぐるみで行う備えが重要です。そこで今月号では、共助の視点から地域の防災活動を担う自主防災組織を取材しました。

十和

自分たちが  
生きれば、  
自分たちで何とかする



四万十町自主防災組織連絡協議会  
十和支部長 小野川 益基さん

自衛隊や周辺集落との合同訓練など非常に実効性のある取り組みが行われているのですが、どういう思いで行っているのですか？

平成16年に発生した新潟中越地震の報道を見て、あの山間部の被害状況と十和の様子が重なった。「自分たちが生きれば、自分たちで何とかするのだ」ということに気づき、それ以来本気で取り組んできた結果である。

訓練への参加率も高いと聞いていますが？

うちは限界集落だし、次世代へ活動を繋げるほどの余裕はない。ただ、それを逆にとり「災害時は自分たちで存続できるようにしないといけない。」その危機感を何度もことごとくに住民へ伝えてきたことが、住民の意識を変え行動に表れていると思う。

大正

地域住民の  
特性を理解  
することが大事



四万十町自主防災組織連絡協議会  
大正支部長 廣田 哲勇さん

大正東部地区の避難所開設訓練や田野々地区の防災スイッチの取り組みなど、避難行動から避難生活の訓練を行って感じていることは？

災害時は避難所へ避難してくる人だけが被災者ではない。在宅のまま被災生活を送る方など、立場や特性によって被災程度は違えど、みんなお互いさま。だからこそ自然と協力して避難所運営ができるような意識、体制づくりの訓練を続けていきたいと思う。

「誰も取り残さない防災」を目指すために、必要なことは何ですか？

避難行動をとりづらいう要配慮者や、乳幼児を抱える家族、障がいをお持ちの方など、災害弱者になり得るひとたちと平時の防災活動を通じて、一緒に何ができるか考えていきたいと思う。  
大正支部では、年一回全地域で訓練内容を考えて防災訓練を実施しているので、今後はそこへの参加を促す工夫をしていきたい。

窪川

興津・志和地区の  
取り組みが刺激に



四万十町自主防災組織連絡協議会  
窪川支部長 利岡 守さん

台地部や沿岸部など地域の特性も異なり、活動を行う上でも様々な課題があると思いますが？

子どもから高齢者まで地域全体で防災活動に熱心に取り組む沿岸部の姿を、特に台地部は見習わなければいけないと思う。最近では、そういった活動から刺激を受け、瓦礫から人を救出する訓練や、応急救護訓練を熱心に行っている地区も増えてきている。

最近では、学校と地域が連携した取り組みも増えてきていると思いますが？

今年度は学校同士の交流として七里地区の土砂災害の危険性、興津地区の津波の危険性を互いに学ぶといった、地域を越えた取り組みも行ってた。組織単独で行う活動には限界があるし、世代や地域を越えた活動をやっていきたいと思う。それが次世代の防災リーダーの育成にもつながると思っている。

これからの時代、

# 防災も女性に活躍してほしい！

「私も、初めは防災にはあまり関心がなかったのよ。」そう語るのは、新開町在住の津野瑞恵さん。地区の防災訓練に初めて参加し、備えの重要性に気付かされたといいます。

防災活動は男性中心で行うイメージが強いですが、近年の災害では女性の参画が大きく注目されています。地域住民主体で行う避難所運営は、子どもや介助が必要な高齢者のお世話や、安心できる避難所環境づくりを考える上で女性の目線が重要となるからです。

先日避難所開設訓練では、区長の立場で避難者受付付近で混雑する住民をテキパキと誘導していたのも津野さんでした。「もっと多くの女性に参加してほしい。誰だってできることはあるのに！」女性のリーダーシップが災害時を救う確信を得た気がします。



新開町在住  
津野 瑞恵さん